

●話題を追って [3]:避難場所表示の標準化へ

津波・高潮／洪水・氾濫／崖崩れ・地滑り／土石流／大規模火災 の5つ 「指定緊急避難場所」と「指定避難場所」を踏まえて災害種別図記号を改正・制定



<標識システム記載例>



いずれも内閣府資料より、上・1番目画像: 2016年3月22日付でJIS改正・制定された災害種別図記号。2番目: 標識システム記載例。3番目: この地域は津波による被害が想定されており、この小学校は津波避難ビルとして指定されている。また、津波以外の災害の避難場所と避難所を兼ねている。この地域では、「洪水、内水氾濫、津波、大規模な火事、土石流、がけ崩れ・地すべり」が想定されており、そのうち「洪水、内水氾濫、津波、大規模な火事」の避難場所として適しているが、「土石流、がけ崩れ・地すべり」には適していないことを示している。4番目: JISですでに制定されている図記号(引き続き活用)(画像クリックで拡大表示)

国は東日本大震災の教訓を踏まえて災害対策基本法の改正(2013年6月)を行い、災害時における緊急の避難場所と一定期間滞在して避難生活をする学校、公民館などの避難所とを区別するため、新たに市町村が指定する生命の安全の確保を目的とする「指定緊急避難場所」と、一定期間滞在し避難者の生活環境を確保する「指定避難所」に関する規定を設けた。

しかし、その表示については統一されておらず、また、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会への対応も必要なことから、全国的に標準化された図記号を求める声が高まっていた。これを受けて内閣府(防災担当)・総務省消防庁など関係府省庁は、避難場所等の表示(ピクトグラム)の標準化の検討を進めていたが、このほど、日本工業規格(JIS)において「災害種別避難誘導標識システム」が改正・制定された。

これを受け内閣府(防災担当)は去る3月23日、総務省消防庁と連名で、避難場所表示の標準化を進めるため、地方公共団体に対してJIS改正・制定された災害種別図記号を用いること、避難場所は災害の種類により異なり、それを区別する災害種別図記号を一般住民向けに周知・普及活動を行うべきことを通知した。

JIS 改正・制定された災害種別図記号は、「津波・高潮」、「洪水・内水氾濫」、「土石流」、「崖崩れ・地滑り」、「大規模な火事」の5種(左図参照)。これらの記号と、避難場所を表す記号や避難場所の名称、距離、方角を示す矢印と組み合わせて用いる。災害ごとにどこ(避難場所やビルなど)に逃げればいいのかを一枚の標識で伝えることができる。

災害対策基本法に基づく「指定緊急避難場所」は異常な現象の種類(i 洪水、ii 崖崩れ、土石流及び地滑り、iii 高潮、iv 地震、v 津波、vi 大規模な火事、vii 内水氾濫、viii 火山)ごとに指定する。また「洪水」と「内水氾濫」は、避難方法が類似であるため共通化、「崖崩れ、地滑り」と「土石流」は事象が異なるため分けて制定、「高潮」はすでにある「津波」と避難方法が類似であるため共通化、「地震」は起きる事象(例「津波」、「大規模な火事」など)でカバー、「津波」はすでに避難場所図記号が整備されていることからこれを引き続き利用、「火山」はシェルターなどに避難するため、それらの周知を図る、などの調整が行われている。

「津波避難場所」、「津波避難ビル」として指定されている避難場所が、津波以外の災害の避難場所である場合は、津波の危険性を考慮し「津波避難場所」、「津波避難ビル」の図記号を優先して使用する。

なお、「避難場所の図記号」、「津波避難場所または津波避難ビルの図記号」について併記することもできる。JISにおいてすでに図記号が制定されている「避難場所(JIS Z 8210-6.1.4)」、「津波避難場所(JIS Z 8210-6.1.6)」、「津波避難ビル(JIS Z 8210-6.1.7)」は引き続きこれらを活用。避難所についても「避難所(JIS Z 8210-6.1.5)」の図記号を引き続き活用するとしている。

[>>内閣府\(防災担当\):災害種別図記号による避難場所表示の標準化の取組に関する通知](#)

BOSAI+ Topics



全面建て替えて境内全体を免震化した水天宮。設計施工は竹中工務店(画像提供:竹中工務店)(画像クリックで全体拡大表示)

●水天宮が建て替え

参詣者の安全を最優先し 境内全体を免震化!

建て替えを進めていた水天宮(東京都中央区)が完成し、去る3月15日にお披露目された。2400㎡の境内全体を免震化したのが特徴で、伝統建築の趣と安全性を両立させている。設計・施工を担当したのは竹中工務店で、免震装置の施工を効率化する創意工夫を導入し、「逆打ち工法」との併用によって全体工期を2割、6カ月間短縮したという。「逆打ち工法」とは1階の床・梁を先行して構築し、それを起点に地下に向かって土の掘削と躯体構築を繰り返していく工法。地上の工事も同時に進めることができ、工期の短縮が図れる。今回のプロジェクトでは、社殿の下部のみ部分的に逆打ち工法を採用したそう。

建て替えは、水天宮の江戸鎮座200年記念事業の一環。境内には社殿のほか参集殿、待合、参道などが配置され、建物はRC造総延べ約5000㎡。2014年1月に着工し、本年2月に竣工を迎えた。全体免震の採用で、参詣者は一歩境内に足を踏み入れれば、大地震の大きな揺れから身を守ることができる。古来、神社は自然災害から安全な場所に立地することが多いが、水天宮は「現代の安心安全第一の神社」として生まれ変わった。

[>>水天宮](#)